

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 3 年 4 月 1 1 日
Date of Application:

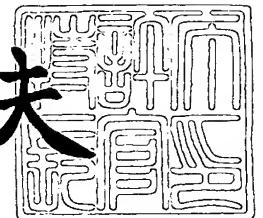
出 願 番 号 特 願 2 0 0 3 - 1 0 8 0 3 9
Application Number:
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 3 - 1 0 8 0 3 9]

出 願 人 コンビ株式会社
Applicant(s):

2 0 0 3 年 8 月 1 9 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康 夫



出証番号 出証特 2 0 0 3 - 3 0 6 7 7 6 1

【書類名】 特許願

【整理番号】 14148801

【提出日】 平成15年 4月11日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 B62B 7/06

【発明の名称】 ベビーカー

【請求項の数】 11

【発明者】

【住所又は居所】 東京都台東区元浅草 2 丁目 6 番 7 号 コンビ株式会社内

【氏名】 吉 江 俊 郎

【発明者】

【住所又は居所】 東京都台東区元浅草 2 丁目 6 番 7 号 コンビ株式会社内

【氏名】 浮 津 裕

【発明者】

【住所又は居所】 東京都台東区元浅草 2 丁目 6 番 7 号 コンビ株式会社内

【氏名】 生 野 時 彦

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県岩槻市釣上新田 2 7 1 コンビ株式会社内

【氏名】 宮 地 亨

【特許出願人】

【識別番号】 391003912

【住所又は居所】 東京都台東区元浅草 2 丁目 6 番 7 号

【氏名又は名称】 コンビ株式会社

【代理人】

【識別番号】 100075812

【弁理士】

【氏名又は名称】 吉 武 賢 次

【選任した代理人】

【識別番号】 100073379

【弁理士】

【氏名又は名称】 佐 藤 政 光

【選任した代理人】

【識別番号】 100091982

【弁理士】

【氏名又は名称】 永 井 浩 之

【選任した代理人】

【識別番号】 100096895

【弁理士】

【氏名又は名称】 岡 田 淳 平

【選任した代理人】

【識別番号】 100117787

【弁理士】

【氏名又は名称】 勝 沼 宏 仁

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2002-277556

【出願日】 平成14年 9月24日

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 087654

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0102715

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 ベビーカー

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

前脚と後脚とを互いに連結し座面を構成する左右の連結バーの後端部に、ベビーカー本体の前後方向後方に突出する L 字状のかご保持杆を連結するとともに、その左右のかご保持杆の先端屈曲部を互いに離間した状態で対向させ、上記かご保持杆に荷物収納用のかごの後部上縁部を係合装着したことを特徴とするベビーカー。

【請求項 2】

左右のかご保持杆の先端屈曲部は互いに伸縮性のある縫製品で連結されていることを特徴とする、請求項 1 記載のベビーカー。

【請求項 3】

左右のかご保持杆は連結バーとともに手押し杆の先端部に枢着されていることを特徴とする、請求項 1 記載のベビーカー。

【請求項 4】

ベビーカー本体の後脚ステーにかご枠支持体を装着し、そのかご枠支持体から突出された突起部に固着された、上記後脚ステーと平行に左右方向に延びる水平杆に、荷物収納用のかごの後縁部を係合装着したことを特徴とするベビーカー。

【請求項 5】

上記かご枠支持体は、後脚ステーに対してベビーカー本体の前後方向に進退可能に装着されたパイプの後端部に固着されていることを特徴とする、請求項 4 記載のベビーカー。

【請求項 6】

上記かご枠支持体には、ベビーカー本体の前後方向に対して斜め上方後方に延びる突起部が設けられ、その突起部の頂端部に前記水平杆が固着されていることを特徴とする、請求項 4 または 5 記載のベビーカー。

【請求項 7】

後脚ステーに対してベビーカー本体の前後方向に進退可能に装着されたパイプ

内には、上記パイプが後方突出位置にあるとき後脚ステーに設けられた穴に係合するように付勢されたピンが設けられていることを特徴とする、請求項 6 記載のベビーカー。

【請求項 8】

前脚と後脚とを互いに連結し座面を構成する左右の連結バーの後端部に、ベビーカー本体の前後方向後方に延びるかご保持杆を連結するとともに、その左右のかご保持杆の先端部に荷物収納用のかごの後部上縁部に係合装着したことを特徴とするベビーカー。

【請求項 9】

上記かご保持杆はかぎ型に屈曲されており、そのかご保持杆の基端部が連結バーが固着された連結部材に軸線回りに或る角度範囲だけ回動可能に装着されていることを特徴とする、請求項 8 記載のベビーカー。

【請求項 1 0】

荷物収納用のかごの底生地には、かごの前後方向或いは左右方向に延びる複数条の袋状部が形成され、その袋状部内に形状保持用の線材が挿入装着されていることを特徴とする、請求項 1 乃至 9 のいずれかに記載のベビーカー。

【請求項 1 1】

荷物収納用のかごの上面開口部における後縁部と後脚ステーとの間の段差部分に左右方向に延びる線材が装着されていることを特徴とする、請求項 1 乃至 1 0 のいずれかに記載のベビーカー。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、ベビーカーに係り、特に荷物収納用のかご部の構造に関する。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

一般に、乳幼児を散歩や買い物等のために屋外に連れ出す場合に使用するベビーカーにおいては、外出時に必要に応じて荷物を入れるためのかごが座面の下に装着されている。

【0003】

すなわち、図14は上記ベビーカーの斜視図であって、そのベビーカーは、前輪11を有する左右一对の前脚12、後輪13を有する左右一对の後脚14、ほぼU字状に屈曲された手押し杆15、左右一对のアームレスト16、及びそのアームレスト16、16の間に掛け渡された着脱可能なガードアーム17によって構成されている。上記手押し杆15を構成する左右のパイプ18の先端近傍部にはそれぞれ上記アームレスト16の一端が枢着されており、その各アームレスト16の他端に前脚12の頂端部が枢着されている。また、左右の後脚14の頂端部も上記アームレスト16の中間部に枢着されており、その後脚14の中間部にはく字状に屈曲されたブラケット19の一端が枢着されている。そして、そのブラケット19の中間位置に前記手押し杆15を構成する左右のパイプ18の先端がそれぞれ枢着されており、ベビーカーの展開状態において、上記ブラケット19の他端に形成された係合部に上記パイプ18の下端部に摺動可能に装着されたロック部材20が係合し、その展開状態を維持するようにしてある。

【0004】

一方、上記左右の前脚12は前脚ステー21によって連結されており、左右の後脚14は後脚ステー22によって連結されている。さらに、各前脚12の中間部には連結バー23の前端が枢着され、その連結バー23の後端が上記ブラケット19とともにパイプ18の先端部に枢着され、また左右の連結バー23の中間部が上側連結バー24によって連結されている。

【0005】

しかして、図14に示すように、パイプ18の下端に設けられているロック部材20をブラケット19の上端に設けられている係止部に係合することによって、ベビーカーが使用可能な展開状態に保持される。一方、手押し杆15に設けられている操作装置25を操作することにより上記ロック部材20とブラケット19との係合が離脱されると、アームレスト16及び連結バー23が前記パイプ18との各枢着点を中心として上方に揺動可能となり、前脚12と後脚14とがほぼ平行状態に揺動され、携帯に便利のように折り畳むことができる。

【0006】

さらに、手押し杆 1 5、前脚ステー 2 1、後側連結パイプ 2 2、及び上側連結バー 2 4 は、2 つの同一垂直面内において各中間部の 2 箇所がジョイントにより折り畳み可能としてある。したがって、上述のように前脚 1 2 と後脚 1 4 を平行状態に折り畳んだ後、左右のパイプ 1 8 を前方に移動させると、上記手押し杆 1 5、前脚ステー 2 1、後脚ステー 2 2 及び上側連結バー 2 4 の両端部が前方に折り曲げられ、ベビーカーを図 1 5 に示すようにさらにコンパクトに折り畳むことができる。

【0 0 0 7】

一方、このようなベビーカーにおいては、通常図 1 6 に示すように、座面の下方に荷物収容用のかご 2 6 を装着することが行われている。

【0 0 0 8】

【特許文献】

実開平 2 - 4 0 6 6 7 号公報

【0 0 0 9】

【発明が解決しようとする課題】

ところが、上述のようにベビーカーにおける座面の下方に大型のかごを装着するにはスペース的に問題があり、容量に制限がある。しかも荷物の出し入れが容易になるようにかご開口部に剛性のかご枠を設けることは、ベビーカーの折り畳み可能とする三つ折りタイプのベビーカーにおいては開閉機構的に問題がある。そこで、従来かごを大型にする場合には、かごを縫製品のみにより製造するとともに、ベビーカーのシートの背面までかごの開口部をあげ、後方に延びた形状にし、その後方に形成された開口部に絞り用の紐 2 7 を設けることが行われている。しかし、このようなものにおいては、荷物の出し入れ時にその都度紐 2 7 を解いたり縛ったりしなければならず、荷物の出し入れが面倒である等の問題がある。また、かご内に荷物を入れると底生地が垂れ下がり、かご底が地面につく可能性がある。そこで、かご底が地面につかないようにするため、かごの高さ方向寸法には自ずから制限がある。

【0 0 1 0】

一方、上記かご底が地面につくことを防止するため、かご内にプラスチック製

の板を入れたり、底生地を吊り上げるためのベルトを増やすことにより生地の弛みを防止することも行われている。しかし、かごの底に板を入れるとベビーカーの折畳み方式によっては、折り畳み時の操作力が悪くなる等の問題がある。

【0011】

本発明は、このような点に鑑み、かごを大型にすることができるとともにかごへの荷物の出し入れがし易く、しかも、かごがベビーカーの折り畳みにも支障がないようにしたベビーカーを得ることを目的とする。

【0012】

【課題を解決するための手段】

請求項1に係る発明は、前脚と後脚とを互いに連結し座面を構成する左右の連結バーの後端部に、ベビーカー本体の前後方向後方に突出するL字状のかご保持杆を連結するとともに、その左右のかご保持杆の先端屈曲部を互いに離間した状態で対向させ、上記かご保持杆に荷物収納用のかごの後部上縁部を係合装着したことを特徴とする。

【0013】

請求項2に係る発明は、請求項1に係る発明において、左右のかご保持杆の先端屈曲部は互いに伸縮性のある縫製品で連結されていることを特徴とする。

【0014】

請求項3に係る発明は、請求項1に係る発明において、左右のかご保持杆は連結バーとともに手押し杆の先端部に枢着されていることを特徴とする。

【0015】

請求項4に係る発明は、ベビーカー本体の後脚ステーにかご枠支持体を装着し、そのかご枠支持体から突出された突起部に固着された、上記後脚ステーと平行に左右方向に延びる水平杆に、荷物収納用のかごの後縁部を係合装着したことを特徴とする。

【0016】

請求項5に係る発明は、請求項4に係る発明において、上記かご枠支持体は、後脚ステーに対してベビーカー本体の前後方向に進退可能に装着されたパイプの後端部に固着されていることを特徴とする。

【 0 0 1 7 】

請求項 6 に係る発明は、請求項 4 または 5 に係る発明において、上記かご枠支持体には、ベビーカー本体の前後方向に対して斜め上方後方に延びる突起部が設けられ、その突起部の頂端部に前記水平杆が固着されていることを特徴とする。

【 0 0 1 8 】

請求項 7 に係る発明は、請求項 6 に係る発明において、後脚ステーに対してベビーカー本体の前後方向に進退可能に装着されたパイプ内には、上記パイプが後方突出位置にあるとき後脚ステーに設けられた穴に係合するように付勢されたピンが設けられていることを特徴とする。

【 0 0 1 9 】

請求項 8 に係る発明は、前脚と後脚とを互いに連結し座面を構成する左右の連結バーの後端部に、ベビーカー本体の前後方向後方に延びるかご保持杆を連結するとともに、その左右のかご保持杆の先端部に荷物収納用のかごの後部上縁部に係合装着したことを特徴とする。

【 0 0 2 0 】

請求項 9 に係る発明は、請求項 8 に係る発明において、上記かご保持杆はかぎ型に屈曲されており、そのかご保持杆の基端部が連結バーが固着された連結部材に軸線回りに或る角度範囲だけ回動可能に装着されていることを特徴とする。

【 0 0 2 1 】

請求項 1 0 に係る発明は、請求項 1 乃至 9 のいずれかに係る発明において、荷物収納用のかごの底生地には、かごの前後方向或いは左右方向に延びる複数条の袋状部が形成され、その袋状部内に形状保持用の線材が挿入装着されていることを特徴とする。

【 0 0 2 2 】

請求項 1 1 に係る発明は、請求項 1 乃至 1 0 のいずれかに係る発明において、荷物収納用のかごの上面開口部における後縁部と後脚ステーとの間の段差部分に左右方向に延びる線材が装着されていることを特徴とする。

【 0 0 2 3 】**【発明の実施の形態】**

以下、添付図面を参照して本発明の実施に形態について説明する。

【0024】

図1は本発明のベビーカーの斜視図であって、ベビーカー本体は図12に示す従来のものと同様に三つ折り可能に構成されており、シート30が載置装着されている座面の下方に荷物収納用の大型のかご31が取り付けられている。

【0025】

すなわち、上記座面を構成する左右の連結バー23の後端部には、ベビーカー本体の前後方向後方に突出するL字状に屈曲されたパイプからなるかご保持杆32の基端部が連結されている。上記左右のかご保持杆32の先端屈曲部は互いにその端部が対向せしめられており、かつ離間されている。図2は上記連結バー23とかご保持杆32との連結部の構成を示す斜視図であり、上記連結バー23の後端部には連結部材33が固着されており、その連結部材33のボス33aに上記かご保持杆32の基端部が挿入固着されている。そして、上記連結部材33が前記ブラケット19とともに手押し杆を形成するパイプ18の先端部に枢着されており、上記かご保持杆32が連結バー23と一体的にパイプ18に対して揺動可能としてある。一方、上記互いに対向する左右のかご保持杆32の先端屈曲部は伸縮性がある縫製品34により連結されている。

【0026】

ところで、左右の連結バー23等により構成されている座面の下方に設けられている荷物収納用のかご31は、その左右両側上縁の前半部が上記左右の連結バー23に懸吊されており、ベビーカー本体の後方まで延びている後部上縁部が、図3に示すように、左右のかご保持杆32及びそのパイプを連結する伸縮性がある縫製品34により構成された枠状体に装着支持されている。

【0027】

しかして、ベビーカー本体が使用可能な展開状態の場合には、ベビーカー本体の後方に延びたかご31の開口部が上記かご保持杆32により保持され、大きく開いた状態となり、かごへの荷物の出し入れを容易に行うことができる。一方、ベビーカー本体を折り畳むときには、折り畳み動作に応じて左右の連結バー23が上方に揺動するのに伴ってかご保持杆32は下方に揺動し、さらに三つ折り状

態に折り畳まれるにしたがって左右のかご保持杆 32 の先端屈曲部間が開くが、両者間が伸縮性がある縫製品によって連結されているので、容易に移動でき、図 4 に示すように、ベビーカー本体とともに折り畳まれ、ベビーカー本体の折り畳みに支障を来すこともない。

【0028】

図 5 乃至図 7 は本発明の他の実施の形態を示す図であって、後脚 14 を連結する後脚ステー 22 にはかご保持部材 35 が設けられている。そして上記かご保持部材 35 に、左右の連結バー 23 にベルト 36 により懸吊されているかご 31 における開口部の後縁部 31a が装着支持されている。

【0029】

図 6 は上記かご保持部材 35 の斜視図であり、左右の後脚 14、14 を連結する後脚ステー 22 の中心部付近には、ベビーカー本体の前後方向に延びる 2 本のパイプ 37 が軸線方向に進退可能に装着されている。上記 2 本のパイプ 37 の後端部にはかご枠支持体 38 が固着されており、そのかご枠支持体 38 の上面から斜め上方後方に延びる突起部 38a の頂端部に、後脚ステー 22 と平行に左右方向に延びる、かごの後部枠を構成する 1 本の水平杆 39 が固着されている。そして、上記水平杆 39 に、一点鎖線で示すように、かご 31 の後縁部 31a が装着支持されている。

【0030】

上記パイプ 37 の先端近傍部には、図 7 に示すように、前記後脚ステー 22 の前面部に当接し上記パイプ 37 の抜け止めを行うストッパネジ 40 が固着されており、また、上記パイプ 37 内にはピン付の板ばね 41 が内挿されている。上記板ばね 41 に装着されたピン 42 は上記板ばね 41 によりパイプ 37 の開口を経てパイプ 37 の外面から突出する方向に付勢されており、上記パイプ 37 が後方に引き出されて前記ストッパネジ 40 が後脚ステー 22 に当接したとき、後脚ステー 22 に形成された穴 43 に係合し、パイプ 37 の固定が行われるようにしてある。

【0031】

しかして、かご 31 の後縁部 31a が装着された水平杆 39 をベビーカー本体

に対して後方に引き出すと、ストッパネジ 40 が後脚ステー 22 に当接するとともにピン 42 が後脚ステー 22 の穴 43 に係合し、上記パイプ 37 が引き出し位置に固定される。したがって、かご 31 の後縁部が、水平杆 39 によってベビーカー本体のシートの背面から離れた位置に固定され、かごの開口を広い状態に保持することができる。

【0032】

一方、上記水平杆 39 を前方に押してピン 42 を後脚ステー 22 の穴 43 から離脱させることにより、上記水平杆 39 を前方に移動させることができ、かご 31 の前後方向のサイズを小さくすることができる。

【0033】

なお、上記実施の形態においては、パイプ 37 とともに水平杆 39 を前後に摺動可能としてかごのサイズを調整できるようにしたものを示したが、パイプ 37 を後脚ステー 22 に固定し、かごのサイズが一定のものとすることもできる。

【0034】

図 8 乃至 10 は本発明の他の実施の形態を示す図であり、座面を構成する左右の連結バー 23 の後端部には、かぎ型に屈曲されたパイプからなるかご保持杆 45 の基端が連結され、ベビーカー本体の後方に突設されている。図 9 は上記かご保持杆 45 に対するかご 31 の取り付け状態を示す斜視図であり、上記左右のかご保持杆 45 の先端部にかご 31 の左右両側上縁の後部が装着保持されている。すなわち、上記かご保持杆 45 は、図 10 に示すように、その中間部の 2 箇所て互いに反対方向にほぼ直角に屈曲され、両端部が互いに反対方向に平行に延びる、かぎ型に形成されており、上記かご保持杆 45 の先端部 45a にかご 31 の左右両側上縁の後部が装着保持されている。

【0035】

前記連結バー 23 の後端部には連結部材 46 が固着されており、その連結部材 46 のボス 46a に上記かご保持杆 45 の基端部 45b が軸線回りに或る角度範囲だけ回動可能に装着されている。すなわち、図 10 に示すように、上記連結部材 46 のボス 46a には、かご保持杆 45 の軸線に対して周方向に延びる切り欠き 47 が設けられており、上記かご保持杆 45 には、その基端部 45b に上記切

り欠き 47 に係合する止めネジ 48 が装着され、かご保持杆 45 が上記切り欠き 47 の範囲で回動可能としてある。そして、上記連結部材 46 は前記ブラケット 19 とともに手押し杆を形成するパイプ 18 の先端部に枢着されており、上記かご保持杆 45 が連結バー 23 と一体的にパイプ 18 に対して揺動可能としてある。

【0036】

一方、かご 31 の上面側に形成されている開口の後縁部には、その後縁部に沿って袋状部 49 が形成されており、その袋状部 49 内にプラスチックファイバーのような素材からなる形状保持用の線材 50 が挿入装着されている。

【0037】

また、かご 31 におけるかご底 31b には、図 11 (a) 或いは (b) に示すように、かご 31 の前後方向或いは左右方向に延びる複数条の袋状部 51 が形成されており、その袋状部 51 内にプラスチックファイバーのような素材からなる形状保持用の線材 52 が挿入装着されている。

【0038】

しかして、ベビーカー本体が使用可能な展開状態の場合には、ベビーカー本体の後方に延びているかご 31 の上面開口部における両側縁部が上記かご保持杆 45 により保持されるとともに、線材 50 により後縁部が緊張されているので上記開口部が大きく開いた状態となり、かごへの荷物の出し入れを容易に行うことができる。一方、ベビーカー本体を折り畳むときには、折り畳み動作に応じて左右の連結バー 23 が上方に揺動するのに伴ってかご保持杆 45 は下方に揺動し、さらに三つ折り状態に折り畳まれるにしたがって左右のかご保持杆 45 の基端部 45b 側の間隔が広くなろうとするが、この場合には左右のかご保持杆 45 の先端部 45a を互いに連結するように配設されているかご 31 の後部上縁により、上記かご保持杆 45 の基端部 45b が軸線回りに回動するように作動され、先端部側が互いに近づく方向に移動する。したがって、上記かご保持杆 45 がベビーカー本体の折り畳みに支障を来すこともない。

【0039】

また、かご 31 内に荷物を入れた場合にも、上記プラスチックファイバーのよ

うな素材からなる線材 5 2 によって底生地が下方に垂れることを効果的に軽減でき、荷物収納用のかご 3 1 をきれいな形状に保持でき外観を向上させることができる。

【 0 0 4 0 】

なお、上記実施の形態においては、かご保持杆 4 5 をかぎ型とするとともに軸線回りに回転可能としたものを示したが、ベビーカー本体の折り畳み構造によってはかご保持杆 4 5 をかぎ型として回転可能とする必要はない。

【 0 0 4 1 】

ところで、上述のようにベビーカー本体の下方に取り付けられた荷物収納用のかご 3 1 を大形にしてベビーカー本体の後方に延びるようにしたものにおいては、荷物 L をかご 3 1 の後縁寄りに入れた場合には、その荷物 L の荷重によって、かご底が図 1 2 において鎖線で示すように垂れ下がり、外観が損なわれる等の問題がある。そこで、本発明においては、図 1 3 に示すように、かご 3 1 の後縁と後脚ステー 2 2 との間の段差部分にも、プラスチックファイバーのような素材からなる線材 5 3 がかご 3 1 の後縁と平行に装着されている。

【 0 0 4 2 】

しかして、上記線材 5 3 を上記段差部分に設けることにより、荷物 L をかご 3 1 の後縁寄りに入れた場合にも、上記線材 5 3 によってかご 3 1 の左右方向での型崩れを防止することができ、結果的にかご底が下方に垂れ下がるようなことがなく、外観が損なわれるようなことがない。

【 0 0 4 3 】

【発明の効果】

本発明は、上述のように、ベビーカー本体の前脚と後脚とを互いに連結し座面を構成する左右の連結バーの後端部にかご保持杆を連結し、或いは後脚ステーにかご保持部材を設け、上記かご保持杆或いはかご保持部材に荷物収納用のかごの後部上縁部を係合装着したので、ベビーカー本体の展開状態時にはかごの開口部が大きく保持され、かごへの荷物の出し入れを容易に行うことができ、さらに、かごをベビーカー本体の後方側に延びた大型のものとすることができ、多量の荷物の搬送にも対応することができる。しかも、ベビーカー本体を折り畳み可能と

したものにおいても、その折り畳みに支障を来すこともない等の効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明のベビーカーの概略構成を示す一部断面斜視図。

【図 2】

かご保持杆取付部の構成を示す拡大斜視図。

【図 3】

ベビーカー本体の展開時におけるかごの開口部の状態を示す図。

【図 4】

ベビーカー本体の折り畳み時におけるかごの状態を示す図。

【図 5】

本発明のベビーカーの他の実施の形態を示す斜視図。

【図 6】

かご保持部材の斜視図。

【図 7】

かご保持部材におけるパイプ部の一部断面側面図。

【図 8】

本発明のベビーカーのさらに他の実施の形態を示す斜視図。

【図 9】

図 8 のベビーカーのかご保持部の拡大斜視図。

【図 1 0】

図 9 におけるかご保持杆部の側面図。

【図 1 1】

(a)、(b) は本発明におけるかごの底生地の平面図。

【図 1 2】

従来のかごの作動説明図。

【図 1 3】

本発明における荷物収納用かごの実施の形態を示す図。

【図 1 4】

三つ折りタイプのベビーカー本体の概略構成を示す斜視図。

【図 1 5】

三つ折りタイプのベビーカー本体の折り畳み状態を示す図。

【図 1 6】

従来の荷物収納用かごを取り付けたベビーカーの斜視図。

【符号の説明】

- 1 1 前輪
- 1 2 前脚
- 1 3 後輪
- 1 4 後脚
- 1 8 パイプ
- 2 2 後脚ステー
- 2 3 連結バー
- 3 1 荷物収納用かご
- 3 2 かご保持杆
- 3 3 連結部材
- 3 4 縫製品
- 3 5 かご保持部材
- 3 6 ベルト
- 3 7 パイプ
- 3 8 かご枠支持体
- 3 9 水平杆
- 4 0 ストッパネジ
- 4 1 板ばね
- 4 2 ピン
- 4 3 穴
- 4 5 かご保持杆
- 4 6 連結部材
- 4 7 切り欠き

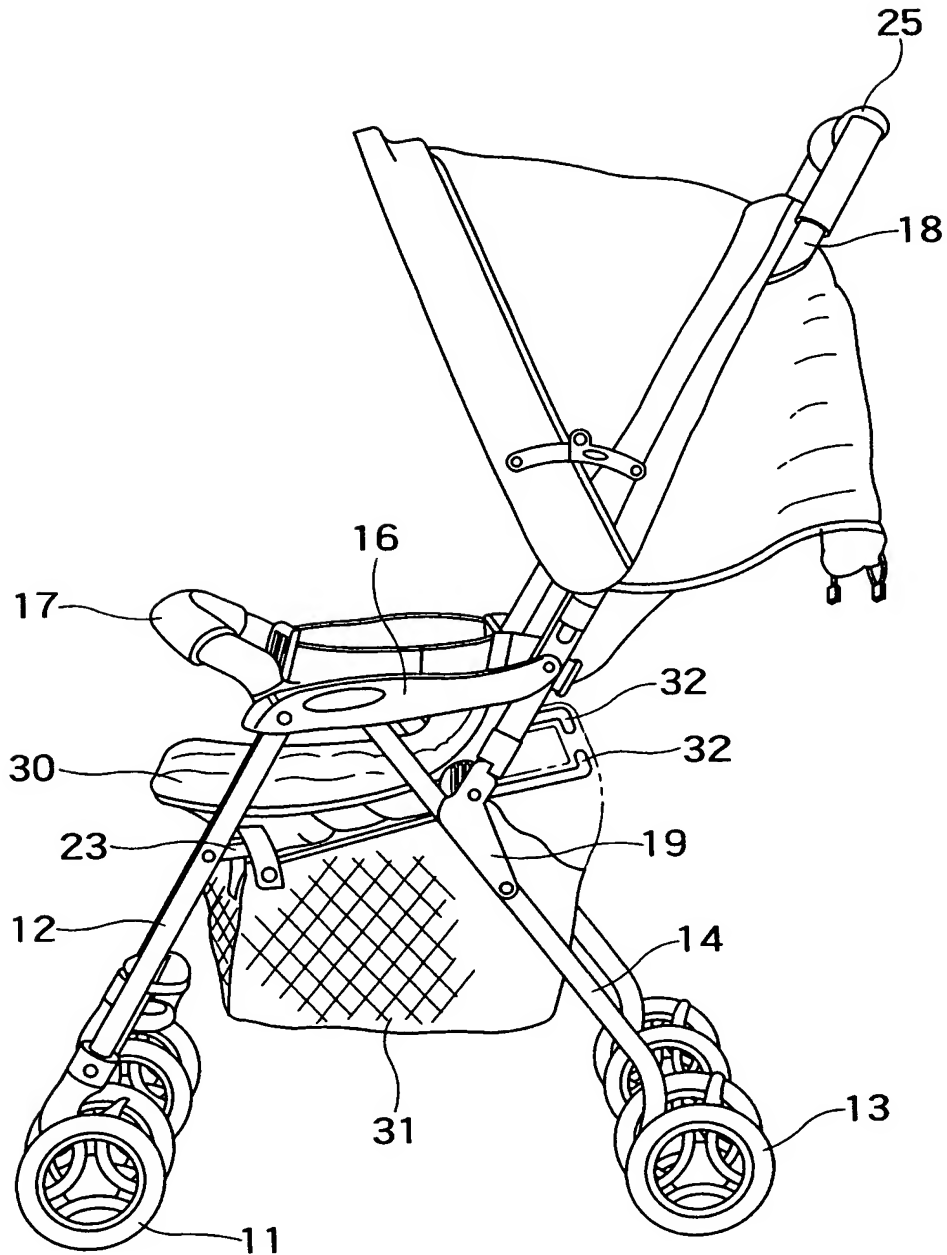
4 8 止めネジ

4 9、5 1 袋状部

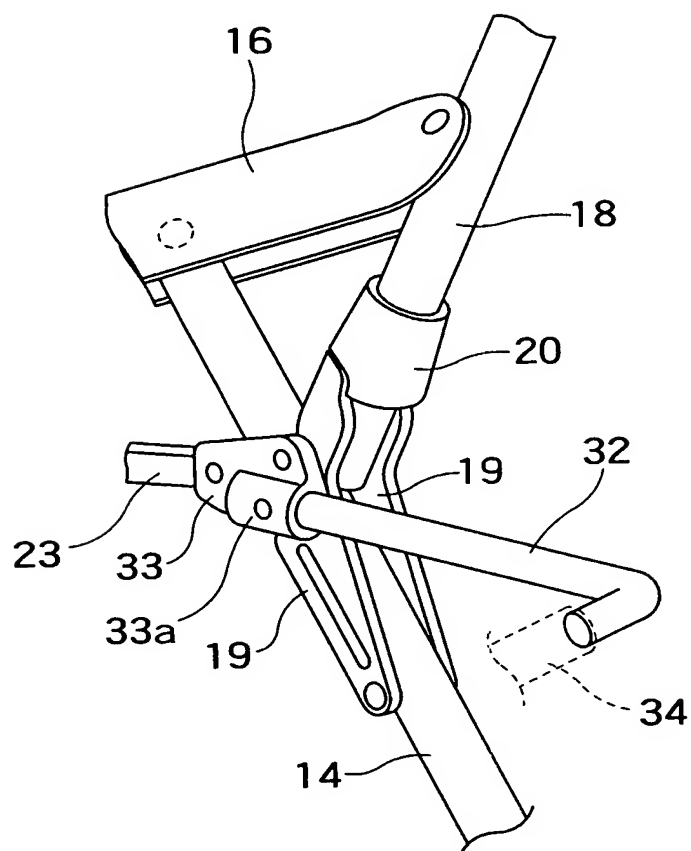
5 0、5 2、5 3 線材

【書類名】 図面

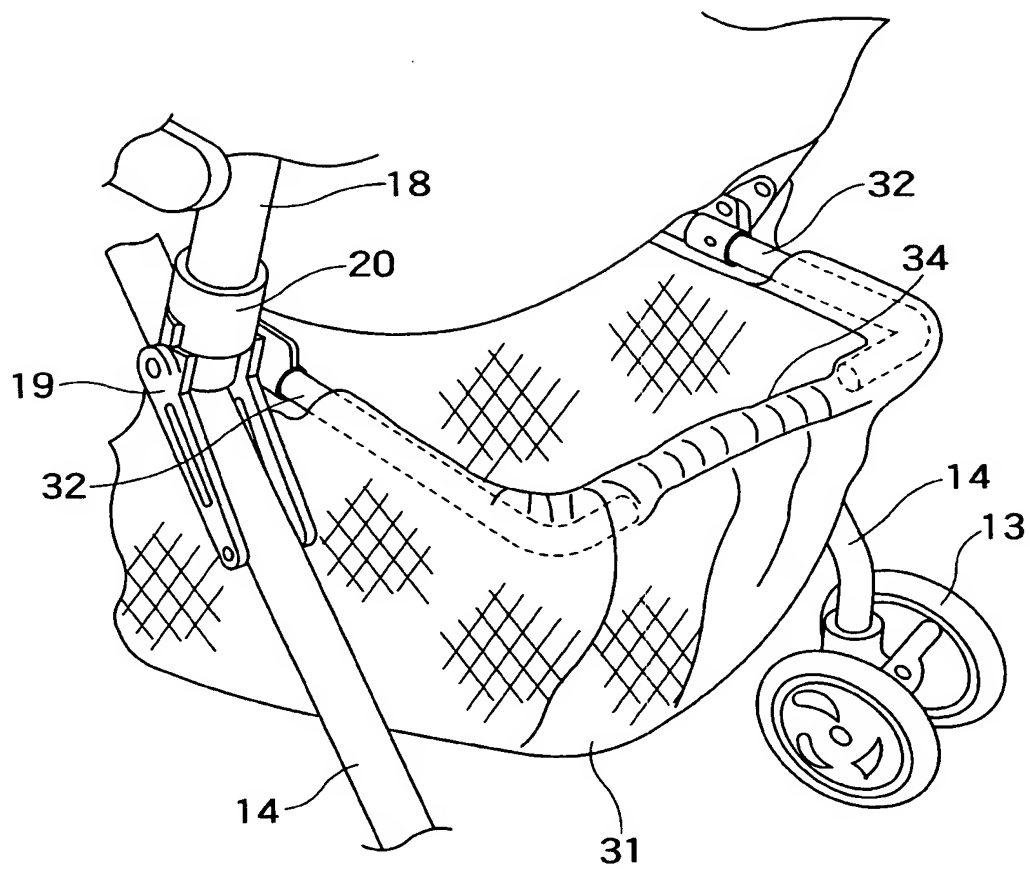
【図 1】



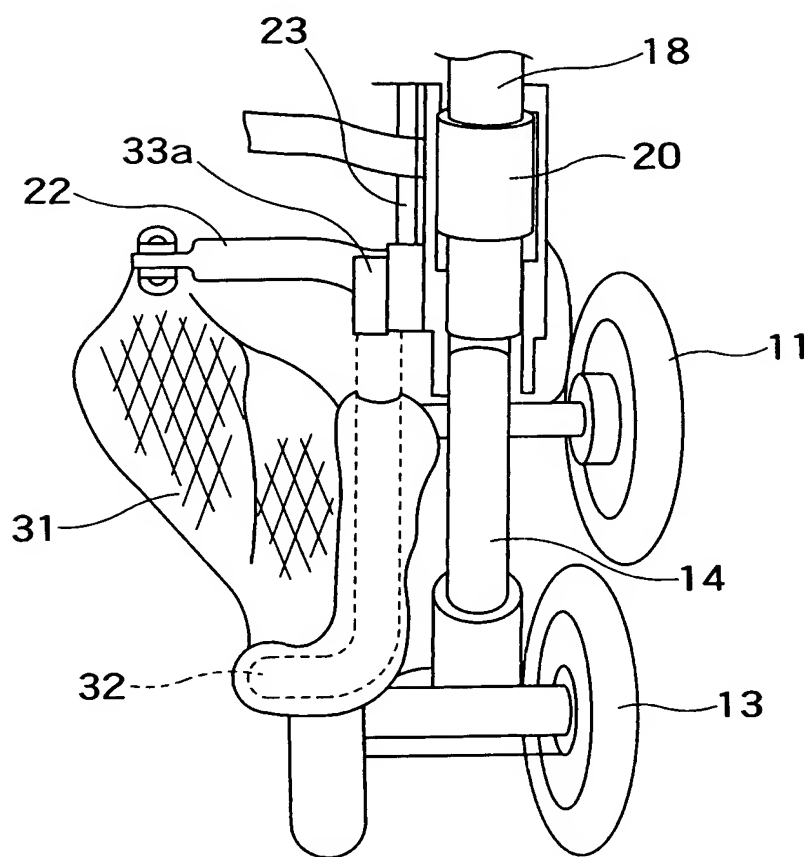
【図 2】



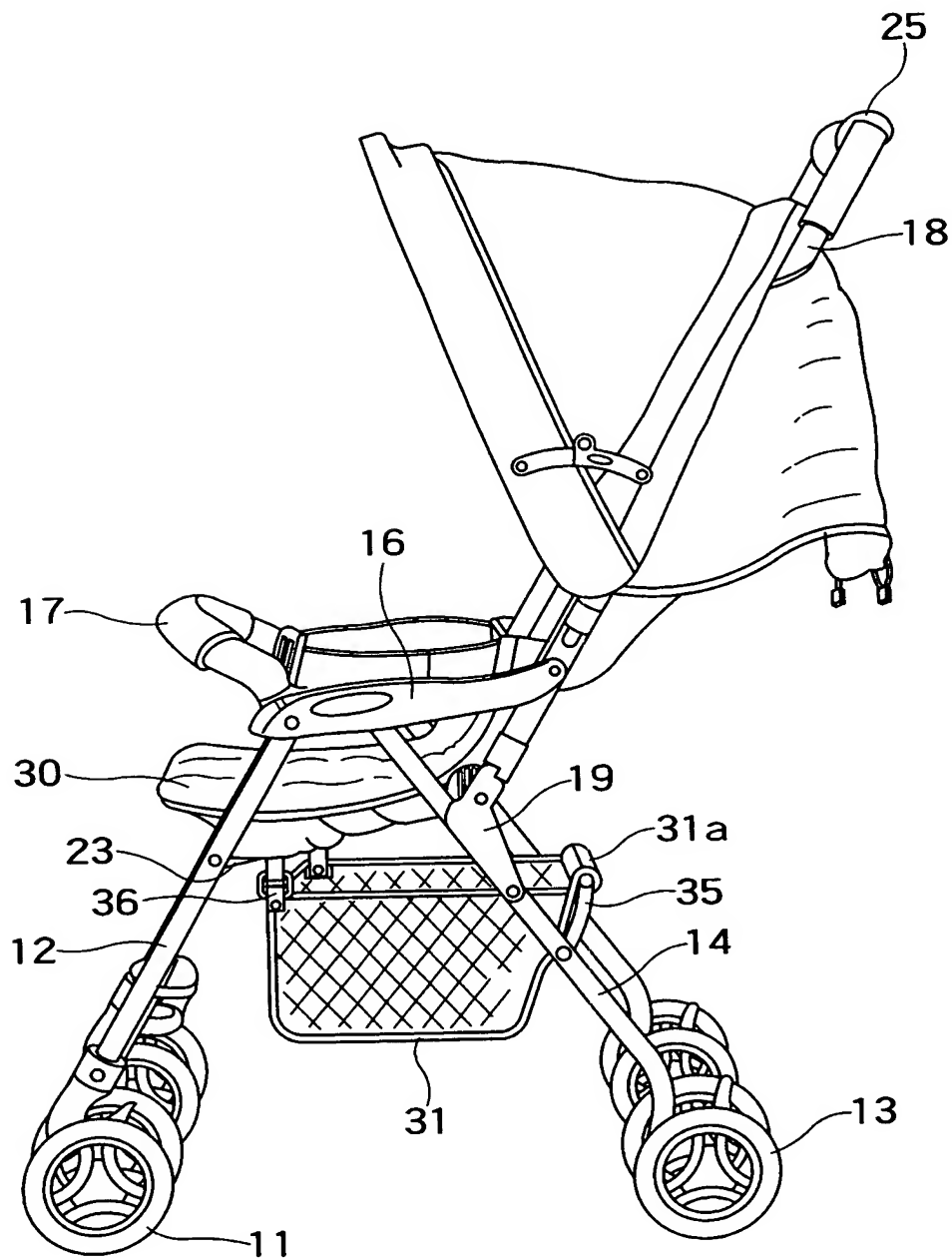
【図 3】



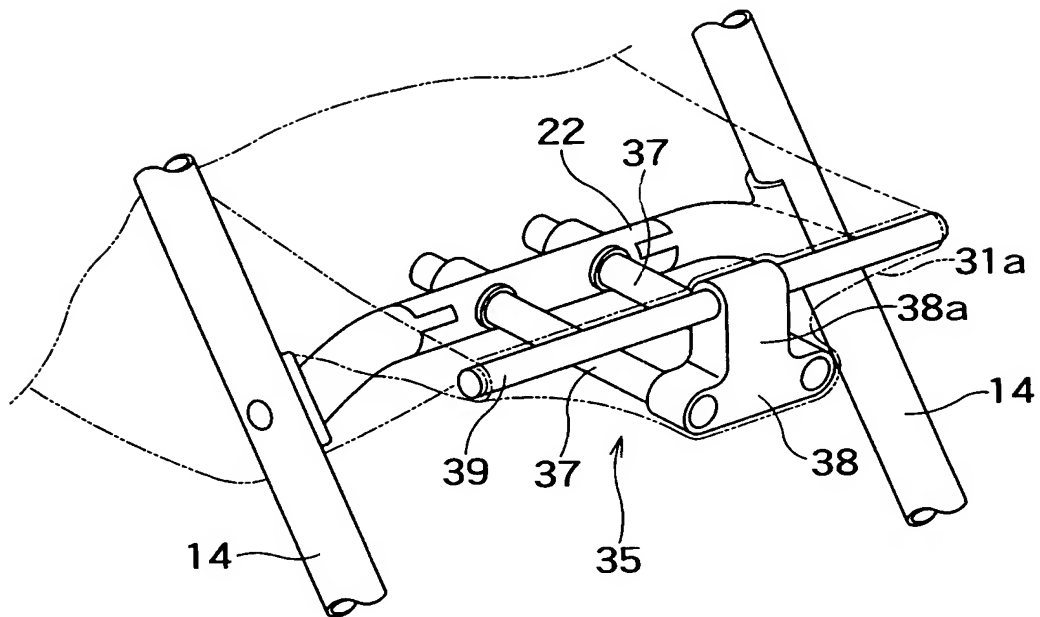
【図 4】



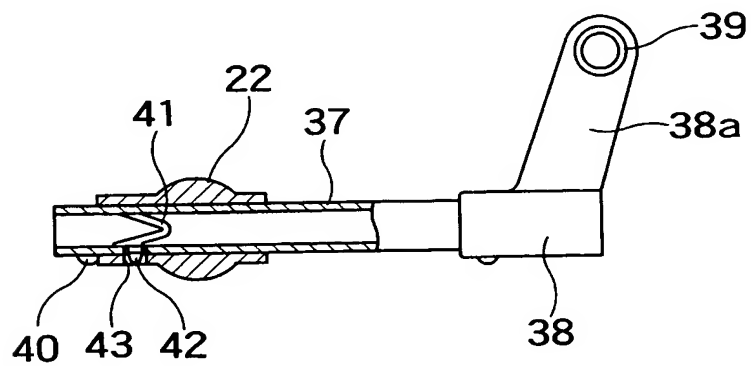
【図 5】



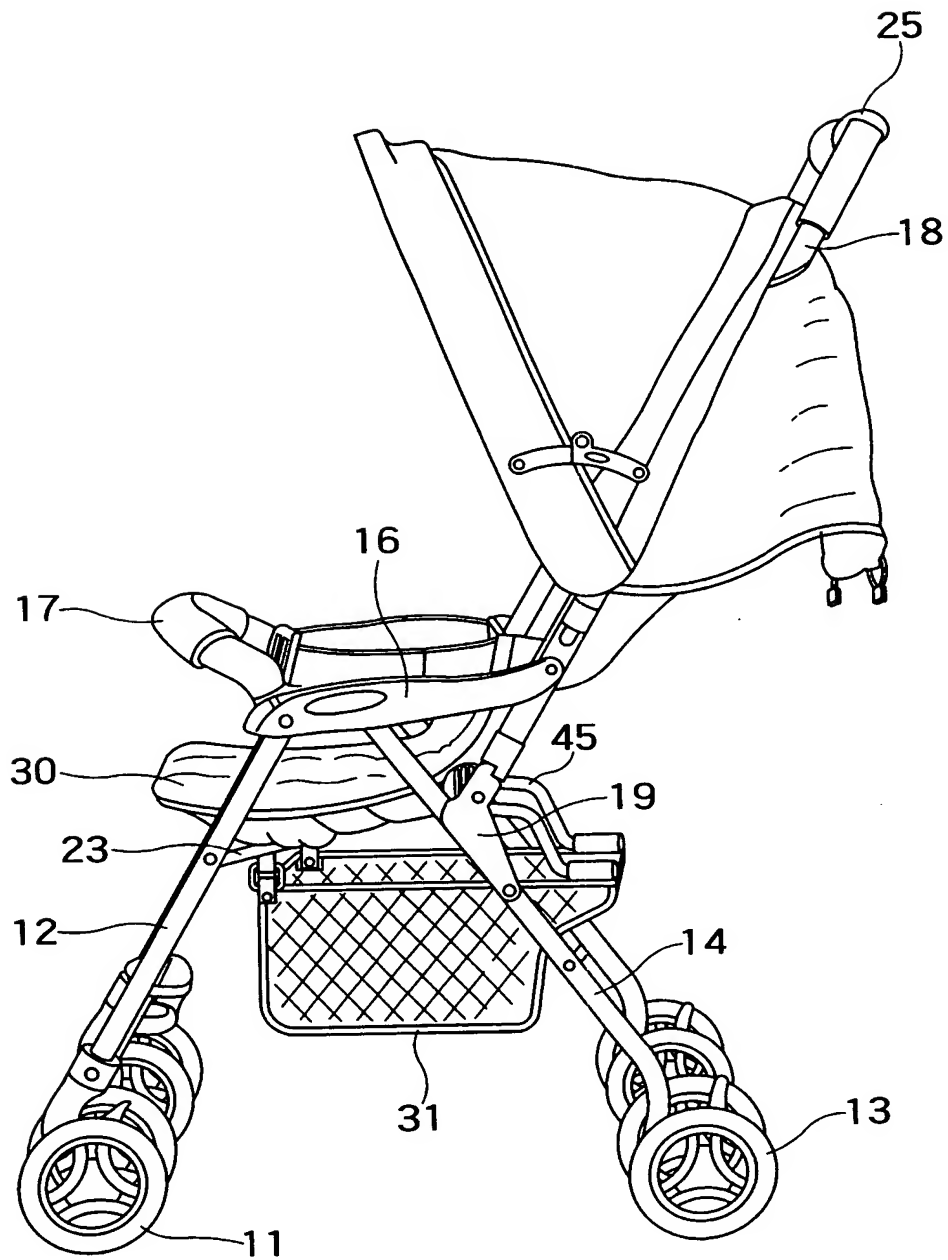
【図 6】



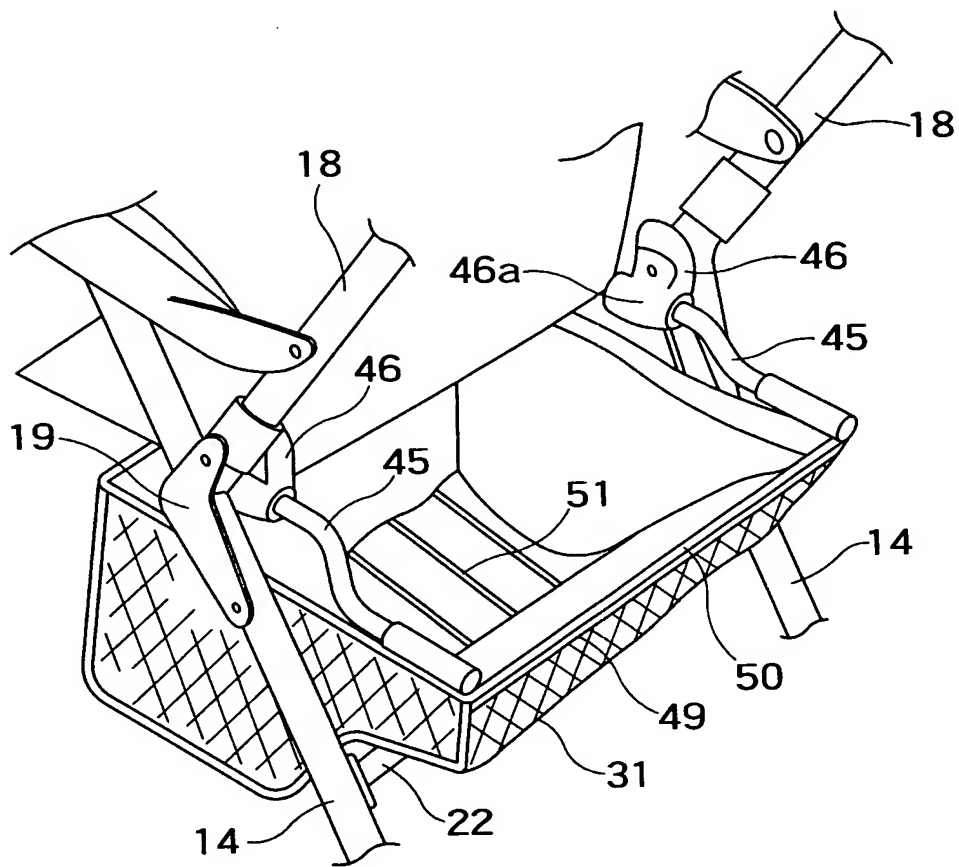
【図 7】



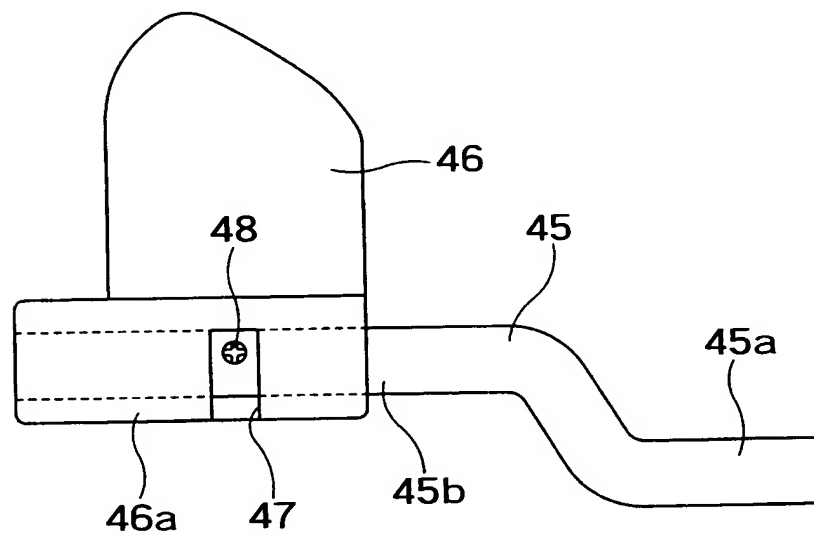
【図 8】



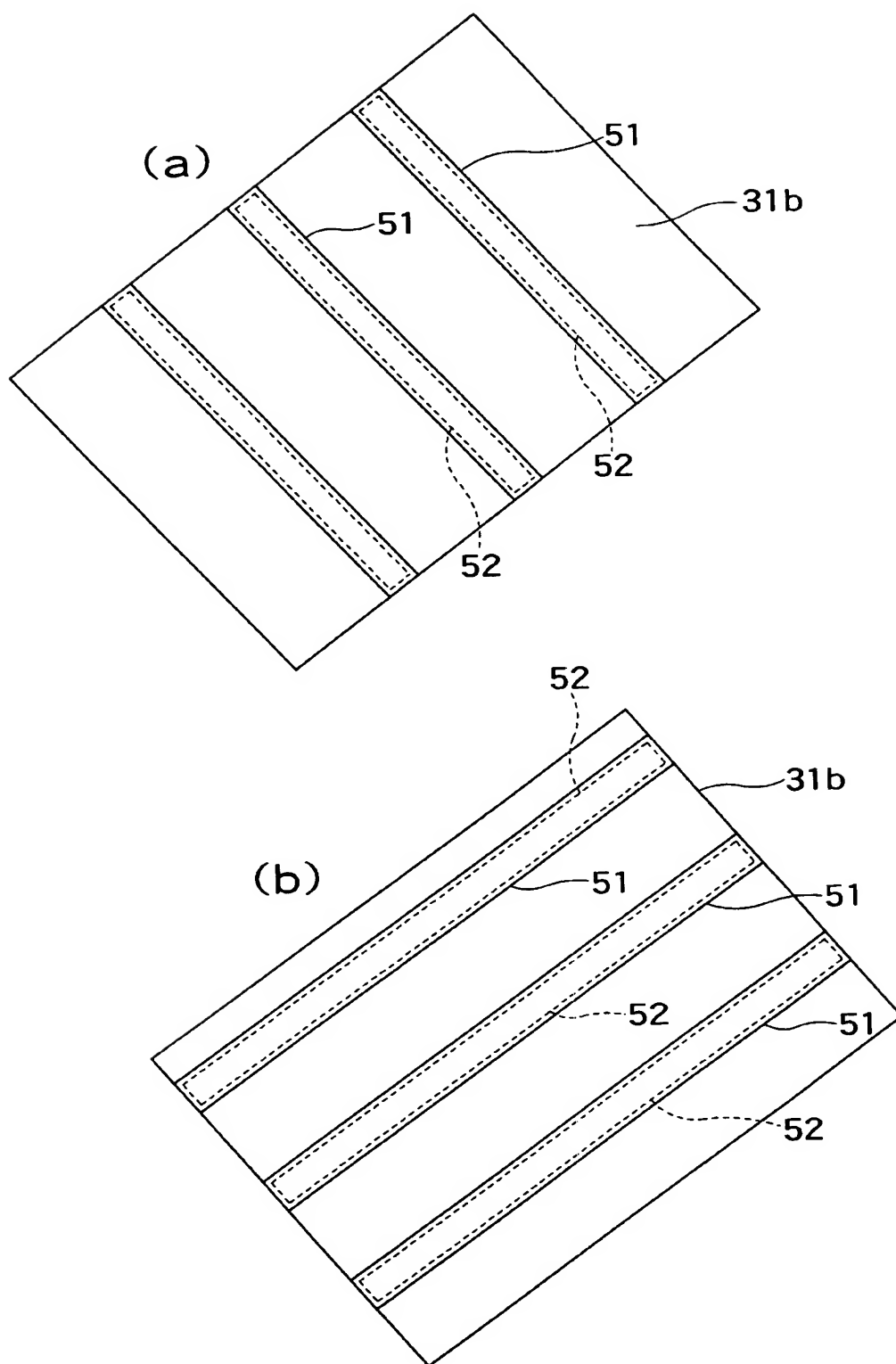
【図 9】



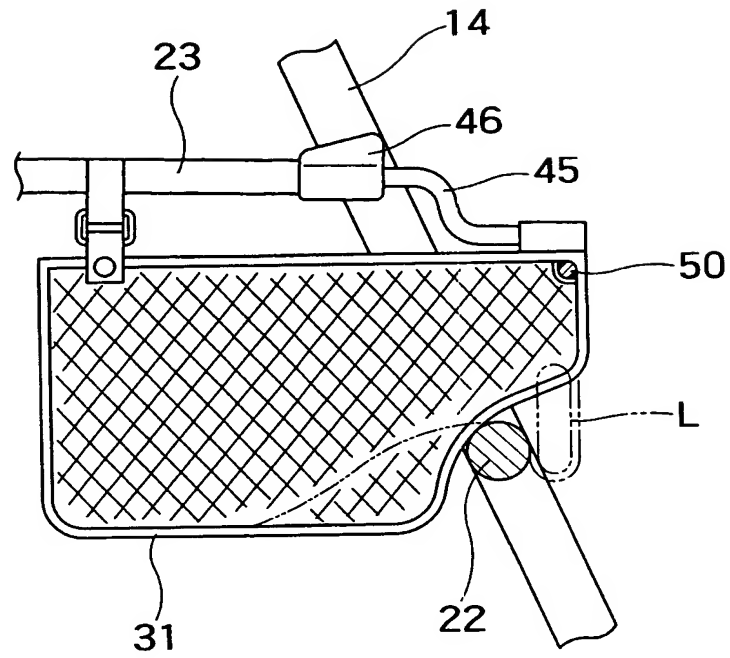
【図 10】



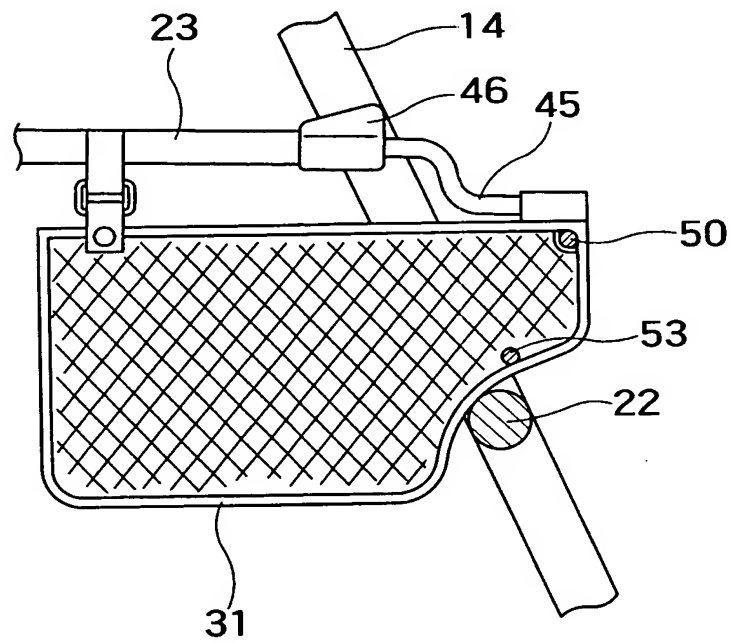
【図 11】



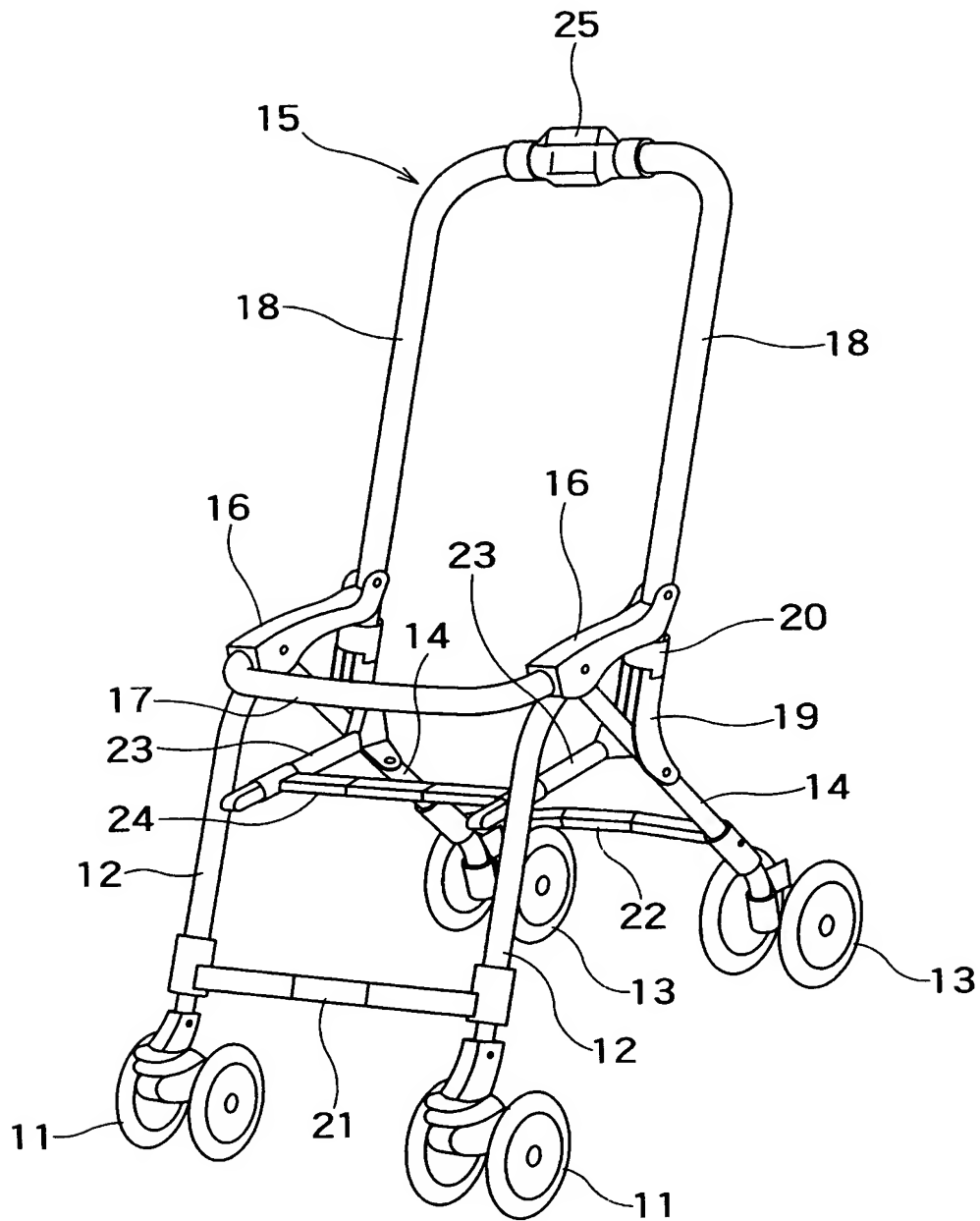
【図 12】



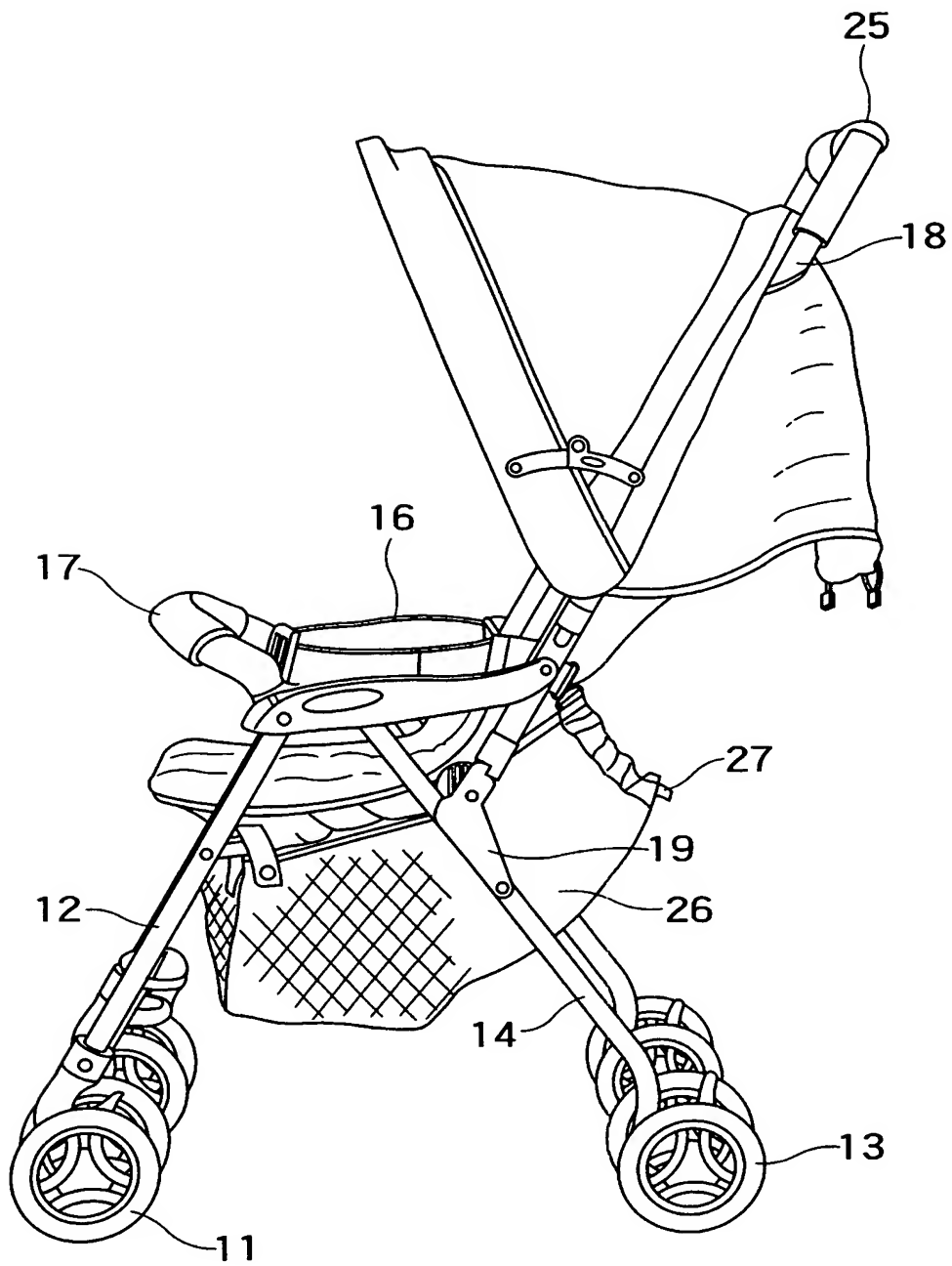
【図 13】



【図 14】



【図 16】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 ベビーカーにおける荷物収納用かごを大型にすることができるとともに、かごへの荷物の出し入れがし易く、しかも、三つ折り可能なタイプのベビーカーにおいても、かごがベビーカーの折り畳みにも支障がないようにすること。

【解決手段】 ベビーカーにおける前脚 1 2 と後脚 1 4 とを互いに連結し座面を構成する左右の連結バー 2 3 の後端部に、L 字状のかご保持杆 3 2 を連結する。そして、その左右のかご保持杆 3 2 の先端屈曲部を互いに離間した状態で対向させ、上記かご保持杆 3 2 に荷物収納用のかご 3 1 の後部上縁部を係合装着した。

【選択図】 図 1

特願 2 0 0 3 - 1 0 8 0 3 9

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[3 9 1 0 0 3 9 1 2]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 1 2 月 2 0 日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都千代田区内神田 3 丁目 1 6 番 9 号

氏 名

コンビ株式会社

2. 変更年月日

1 9 9 6 年 8 月 7 日

[変更理由]

住所変更

住 所

東京都台東区元浅草 2 丁目 6 番 7 号

氏 名

コンビ株式会社